

四谷の

# 千枚田だより



第 261 号



特集

## お田植感謝の夕べ

～みんなで灯そう千枚田～

開催日 6月7日(土)



思えば、平成十七年九月二日・三日、第十七回全国棚田(千枚田)サミットが鳳来町(四谷の千枚田)で開催され、二日間で延べ千七十八人の棚田関係者が参加、地元住民、スタッフを含むと延べ千五百人が取り組むという鳳来町始まって以来の盛大な催しを成功させ、翌十月一日には新城市(新城市、鳳来町、作手村の三市町村が新設合併)が誕生。今年にはサミット開催、新城市誕生二十周年にあたる。よって今回の「お田植感謝の夕べ」も二十周年記念行事と捉え開催した。



六月七日(土)、十九時、号砲を合図に開演。冒頭に会長は「皆んな、ありがとうさま...苦勞さま...」千枚田を守る耕作者は日々、獣害被害、天候不順などに悩まされ、その苦勞は並大抵ではない。そして、本日参加いただいた皆さんと共々「つなぐ棚田遺産」認定の四谷の千枚田の栄を願ひ、本日のイベントを心身ともに堪能していただければ幸いです。また、梅雨時にも拘わらず、初回開催以来一度も雨降らずで(実は開演一時間前にお天道様のサプライズで一瞬であるがパラパラと愛

嬌程度の小雨があつた)で継続できたことも、郷土愛、皆さんの熱意の賜物」と、お天道様に感謝と挨拶。衆議院議員今枝宗一郎様、愛知県新城設楽農林水産事務所建設課長河合俊行様、JA愛知東常務務河合司様、新城市市会議員柴田賢治郎様(保存会員)方々に挨拶を頂いた。どなたにも千枚田を守る姿勢と地域の皆さんに敬意を表したお言葉を頂戴した。



会場では保存会、地域住民、リピーターが一体となり丹精込めた「鳥長」の焼肉、大はそり二鍋のシシ汁、かあやん商店とうやんの焼きそば、「棚田っ娘」自慢の五平餅も完売。何かとお世話になっている「八雲だんご」の串ダangoや「ヤマサちくわ」のキッチンカーも出店、大好評であった。JA愛知東は二台のシャトルバスの運行、役員・職員、また、地

元企業神星工業社員や県職員のボランティアなどのお力を頂いた。段々田んぼの作業道(景観道)に幽玄、且つ幻想的に灯る千五百本のロウソクの光と天空を彩る二十発の打ち上げ花火、コスプレイヤー参戦、田んぼを飛びかうホタルの演出には、五百人を超す参加者の誰しにも感動を与えた。

午後九時、五連発の打ち上げ花火を合図に高橋孝行副会長はこの催しが地域・参加者が一体となり盛大に行われたことを喜び、村の活性化に繋がれば幸いと思う、と述べた。

追記 棚田研究の第一人者中島峰広先生のお孫さん南陽祐君(関東農政局)も訪問。「お爺ちゃんによるしく」と秋のサミットの再会を約束した。

**環境保全活動**  
五月三十一日、保存会は「お田植感謝の夕べ」を視野に会場および周辺の草刈りを行った。



写真:「鳥長の皮肝」の味見を兼ねたお日待

**田植え**

五月十五日、地元鳳来寺小学校五年生(六名)は十三日に泥んこになりながら代掻きをした田んぼの田植えを行った。昨年は千枚田の農家が収穫した後で稲刈りを行い、害獣のニホンジカやサルに稲穂を食べられたり、踏み倒されてあまりお米が穫れなかった。やはり、農家と歩調を合わせるのが大事だ。等々を説き、苗の植え方などを説明、田植えを行った。



**田の草取り&梅取り**

六月五日、豊橋調理製菓専門学校(二十名)は自ら植えた田んぼの草取りに汗を流した。昨年の八月八日南海トラフ地震臨時情報が発令。「備えあれば憂いなし」の合言葉に主食である米の買いだめが起因した米騒動が勃発。米価格の高騰が持

続(令和の米騒動)、現在でも不安定な状況が続いており、日本人の主食の原点である米の大切さが改めて見直されている。そんな時世に将来食のプロを目指す皆さん(学生)も米つくりの大変さを実感、今後の糧として頂きたい。等々を説いた。学生たちの稲作体験にも現在の米への関心度が大きく感じられた。



田の草取りを終え、梅の収穫を行った。今年は梅の花は咲いたものの天候が不順で梅の実りが悪く、極端な不作になった。そんな折、学生先輩である村雲伸一(保存会)の好意で何とか収穫できた。感謝。

行 令和七年六月十五日  
鞍掛山麓千枚田保存会  
発 文 責 小山舜二